



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「インドに還る、インドに伝える」④

漢字名ではなく、なぜ「Nichiren」と表記するのか、とのお問合せをいただいた。

まずは、わが輩の中の先入観、わが意識にこびりついた潜在的印象（サンスカーラ）を除去するためである。

高校時代に教師から聞いた。

「通勤市電の中で、四天王寺さんにむかって“邪教”と叫ぶおっさんがおったで」

四天王寺といえば聖徳太子創建の由緒ある寺院である。聖徳太子は「和をもって貴しとなす」を金言としている。

わが輩は、大阪風金言を思い浮かべた。

「アホ言うもんが、アホや」

現実には、おっさんを侮ることはできなかった。わが実家の前、両隣が次々に改宗していった。当然わが家にも勧誘の手がのびてきた。

「お宅のご主人体調悪いのところがいますか。信心したら治りますよ」

そのころ親父殿は頭痛に悩まされていた。それで祈祷屋に頼ったこともあった。「お前の妻に原因がある」と不埒なことを言ったおがみ屋もいた。気丈な母者は、病気は医療によって治るものだと受け入れなかった。

このような体験が積み重なって潜在的印象を形成した。

もう一つの理由は、インドの Nichiren とは何か、を考えてみたかったからである。インドにはすでに日本の仏教系団体が進出している。いくつかの団体は、「Na-Mu-Myo-Ho-Ren-Ge-kyo」と唱えている。

ところで、インド人からこのマントラの意味を聞かれたとき次のように翻訳していた。

Na-Mu は、帰依すること (beliving, devoting)、Myo-Ho-Ren-Ge-kyo は、『サツダルマ・プンダリーカ・スートラ』と答えていた。

これでは正しく伝わらない。単に言語を分節化しただけにすぎない。

マントラは、必ずしも分節化して意味を理解する必要はない。コトバそのものに霊力があるからである。おがみ屋ばあさんのマントラ「大麦小麦、二升五合」の話は有名である。ある和尚が正しくは「応無所住、而生其心」（金剛般若経、私心のない心をもて）であると教授したところ、ばあさんの霊力が失われたという話が残っている。

言語の文節化は頭のよい人の作業で、行者の行いではない。

「Na-Mu-Myo-Ho-Ren-Ge-Kyo」は、「Na-Mu-Myo-Ho-Ren-Ge-Kyo」である。一語にて完全完結で他に意味はない。

さりとして、インド人から問われたら答えざるを得ないのが凡夫の性である。最近は、「どなたさまでも、いつでも尊敬していますよ！」

の意味だと答えている。ことばを変えれば、「あなたさまを決して軽ろんじない」、決して相手をけなさない。つまり尊敬していますよ、ということになる。ここでサッダーパリブータ菩薩を思い起こされたことと思う。菩薩はなぜ誰でも尊敬するのか。それはあなた様が、すでに“ほとけさま”だからである。

前回に、仏の境地にある人間にも濁がある(十界五具)、と述べた。完全純白無垢な人間はいない。天台大師の考えだが、わが輩には現実性を重んじる中国人的な発想だとおもえる。

インドには人間五蔵説なるものがある。人間は5つの鞘、袋(コーシャ)からなっているという。
①アンナマヤ・コーシャ(食物) ②プラナーマヤ・コーシャ(呼吸) ③マノーマヤ・コーシャ(心)
④ヴィジュナーマヤ・コーシャ(知性) ⑤アーナンダマヤ・コーシャ(歓喜)

①から④までは人間が生きていく上に必要な物質的領域である。分からないのは⑤で、それらとは少し異なる。本来の自己なるものが、面白い映画を自ら上映して“喜ぶ”といったものだろうか。だからアーナンダマヤにコーシャ(物質的袋)とつけるのは正しくないという見解がある。

いずれにしても、人間の背後に歓ぶ絶対的主体があるということである。ここに中国・日本とインドとの差異がある。それを一言でのり越えるのが、行者の「Na-Mu-Myo-Ho-Ren-Ge-Kyo」なのである。

話をもとにもどして、Nichiren と菩薩、戦闘的と謙虚性の相反する概念の同時性は成立するのであるだろうか。

大学時代に宗教に無関心な学生運動家から聞いた。

「すごいんだぜ。機動隊に坊主頭を割られ血だらけになっても、まだタイコをたたいて御辞儀してるんだぜ」

なんとも過激なお坊さんもいるものだと印象に残った。

この姿に同時性があるとわが輩は思う。ガンディーは正にその先駆的实践者であった。